

2021年5月14日

## 味の素(株)、農産物ECスタートアップ企業の(株)坂ノ途中に出資 ～新事業モデル創出に向けてコーポレートベンチャーキャピタル活動を加速～

味の素株式会社(社長：西井 孝明 本社：東京都中央区)は、当社コーポレートベンチャーキャピタルの第1号案件として、農産物のEC販売等を行っている株式会社坂ノ途中(社長：小野 邦彦 本社：京都府京都市、以下坂ノ途中社)に出資しました。これにより、当社は坂ノ途中社の株主として同社の事業成長を支援すると共に、同社が販売する野菜やスペシャルティコーヒー<sup>※</sup>豆等を活用した新事業モデルの検討を開始します。

食品等のEC市場は約1兆8,000億円とされていますが、食品市場全体の中で占める割合は約3%と低い水準です。一方で、伸び率は前年度比約8%となっており、今後さらに成長が見込まれています(2019年度、経済産業省調べ)。また、スペシャルティコーヒーは日本でも関心が高まり続けており、その市場は2018年度の356億円から、2022年度には498億円まで成長すると予想されています(全日本コーヒー協会調べ)。

2009年に設立された坂ノ途中社は、低環境負荷の農業に取り組む新規就農者や東南アジアの森林減少防止に寄与するスペシャルティコーヒー豆の生産者等を支援し、小規模ながら高品質、低環境負荷の農法で栽培された野菜のセットやコーヒー豆のサブスクリプション販売を行っています。この支援活動を通じて独自に構築した生産者とのネットワークや、同社の取り組みおよび製品を強く支持する顧客層を強みとしています。

当社グループが保有する商品力や知見と坂ノ途中社が保有する生産者や顧客とのネットワークの共有により、新たな価値提供の可能性が検討できること、EC販売の領域において豊富な経験を有する坂ノ途中社との取り組みにより消費者との新たな接点を期待できることから、今般の出資を決定しました。

当社はコーポレートベンチャーキャピタルの投資領域として「Well-Being」、「地域・地球との共生」、「食の伝承と新たな発見」、「調理の進化」を設定しています。食資源確保や環境負荷低減につながる生産者から消費者までのサステナブルなバリューチェーンの構築を支援することで、2020-2025中期経営計画で掲げる「食と健康の課題解決企業」の実現を目指します。なお、本件が2021年度業績に与える影響は軽微です。

※スペシャルティコーヒーの定義：生産国における栽培管理、収穫、生産処理、選別そして品質管理が適正になされ、欠点豆の混入が極めて少ない生豆であること。適切な輸送と保管により、劣化のない状態で焙煎されて、欠点豆の混入が見られない焙煎豆であること。さらに、適切な抽出がなされ、カップに生産地の特徴的な素晴らしい風味特性が表現されること(出典：日本スペシャルティコーヒー協会サイト)。

### 参 考

#### ■坂ノ途中社概要

- (1)社 名：株式会社坂ノ途中
- (2)所 在 地：京都府京都市
- (3)設立時期：2009年7月
- (4)代 表 者：小野 邦彦
- (5)事業内容：新規就農者を中心とした提携生産者が栽培した農産物のEC販売等
- (6)従業員数：約100名
- (7)WEBサイト：<https://www.on-the-slope.com/>

2020年12月16日付プレスリリース

味の素(株)、コーポレートベンチャーキャピタルを新設

[https://www.ajinomoto.co.jp/company/jp/ir/news/news20201216/main/0/link/2020\\_1216\\_J.pdf](https://www.ajinomoto.co.jp/company/jp/ir/news/news20201216/main/0/link/2020_1216_J.pdf)

味の素グループは、“アミノ酸のはたらき”で食習慣や高齢化に伴う課題を解決し、人々のウェルネスを共創する、食と健康の課題解決企業を目指しています。

私たちは、“Eat Well, Live Well.”をコーポレートメッセージに、アミノ酸が持つ可能性を科学的に追求し、事業を通じて地域や社会とともに新しい価値を創出することで、さらなる成長を実現してまいります。

味の素グループの2020年度の売上高は1兆714億円。世界35の国・地域を拠点に置き、商品を販売している国・地域は130以上にのぼります(2021年現在)。詳しくは、[www.ajinomoto.co.jp](http://www.ajinomoto.co.jp)をご覧ください。